

## 南小たば風通信 2019

令和元年8月26日 第13号

先日の板書交流会、お疲れさまでした。授業者の三上先生、荒谷先生指導案作成ありがとうございました。また、低学年、中学年の先生方お疲れ様です。あとひと踏ん張りです。頑張りましょう。先日の板書交流会で出たことをまとめましたので、ご覧いただき授業づくりに生かしていただけたらと思います。

**公開研究会での教材**    **2年生 「わにのおじいさんのたからもの」**  
**4年生 「一つの花」**

8月22日の流れ	14:30～	2年生	板書交流
	15:15～	長浦教育支援課長	からの助言
	15:30～	4年生	板書交流
	16:15～	長浦教育支援課長	からの助言
	16:20		終了

## 2年生 「わにのおじいさんのたからもの」

### 《授業者から》

・単元のゴールとして『「わにのおじいさんのたからもの」の話の続きを書こう』という課題を設定した。（そのために指導事項は、ウ 文学的な文章の解釈に関する指導事項とした。）この学習の後に、生活科の学習保育園や幼稚園へ自分たちが作った物語を幼児に読み聞かせをする場を設定した。（生活科との関連を考えると、エ・オ 自分の考えの形成及び交流に関する指導事項になるが、話を理解し続きを考えることになるので、ウに重点を置くこととする。）何のために物語を読むのかを意識しながら学習に取り組むことができるようにする。また、相手は園児だということで、あまり長くない話で、わかりやすい言葉で伝えることを意識するようにする。

・「わにのおじいさんのたからもの」のは、かわさし ひろしの作品である。「ぼうしをかぶった おにのこ」のシリーズを図書館で探し、朝読書の時間を活用して担任が読み聞かせを行うこととした。子どもたちが意欲を高め、教材を読み深めることができるようにしていきたい。

・単元指導計画は、指導事項と身につけさせたい力を明確にし、主体的・対話的で深い学びを位置づけることが示されているので、もれなく組み立ててみた。

・国語の学習でいつもしていることは、難しい語句を確かめることや面白いと思ったことに線をひくことである。

・4～7時間目の場面では、わにのおじいさん、オニの子、地の文と役割分担をさせて読ま

せていく。12 時間目では、グループごとに対話をさせながら、お話を作り上げていきたい。

### 《その他の授業づくりに関して》

- ・単元のゴールとして『「わにのおじいさんのたからもの」の話を続きを書こう』という課題を設定したことで、指導事項は、ウ 文学的な文章の解釈に関する指導事項とした。生活科との関連を考えると、エ・オ 自分の考えの形成及び交流に関する指導事項になるが、話を理解し続きを考えることになるので、ウに重点を置くこととする。
- ・研究では、ピクトグラムを使って確認し、一時間にどの力を身に付けさせたいのかを明確にすることにしている。読むこととして、一単元一領域として進めることも、昨年度に主査からアドバイスをいただいているところである。
- ・対話についても、いろいろな対話がある。書いたものとの対話もあるのでギャラリーウォークなども取り入れた。

### 《質問・意見》

- ・指導上の留意点で「考えるのが苦手な子に対する支援の手立て」は、どんなものがあるのか考えておくことが大切だと思う。
- ・3の良さを伝え合う場面では、伝え合う活動として、自分達が考えたことを劇化するなどの手段を使ったりしながら、そのなかで登場人物の気持ちなどを考えさせる活動も考えることができる。子どもたちが自分の考えと比較して、新たな考えを持つことができるような活動にすることができればよいと思う。
- ・本時までの役割演技などでも、身振り手振りなども取り入れていくと、本時との活動にもつながっていくと感じる。
- ・様子を豊かに想像するというのは、現行の指導事項にあるので、子どもが様子の想像を表現する場合は、気持ちや行動という言葉を使うこともあるのかな？と思った。
- ・物語を作るときに、書き出しを指定しているので場面を設定がされている。大幅に違う方向には、子どもの思考が流れない工夫にもなる。

### 《長浦課長 助言》

- ・新学習指導要領では、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像するというのはあるので、1・2年生の段階で気持ちに特化すると、ハードルが高くなる。話の続きは、登場人物の行動を想像するという風に考えればよいと思う。ここで深入りすると子どもたちのレベルにも差があるので、あまりハードルを高くしないように気を付けたほうがよい。

この一時間で身につけさせたい力は、「深い学び」になっているので、一人で解決するというよりも友達と対話させることや友達の話聞いて終わるのではなく自分の文章に書き足したいと思ったりすることになるのかなと思う。

振り返りでは、無理にまとめることはしないで、「友達の意見を聞いて気付いたこと」や「学び」につながると思う。みんなで考えたことを「～の出たね」「みんなの考えを交流すると考えが広がるね。」というふうに、いくつか振り返りにすると「深い学び」につながっていくと思う。

- ・この授業に関しては、「わかったこと」を振り返りにするのは、難しいかもしれないから、

思ったことや感じたことで自分が直してみたいところがあればと思った。

また、話を考えた理由づけなど言える子がいたら、「深い学び」になると思う。

・考えるのが苦手な児童に対する児童への手立てについては、特別支援担任がいくつか用意できるとよい。「なんて言ったと思う？」などの問いかけで、子どもに寄り添っていけると思う。また、「前のところ読んでみよっか？」などの言葉かけもできる。

## 4年生「一つの花」

### 《授業者から》

- ・「友達の話聞いて考える」「自分の考えたことを発表する」ことに苦手意識を抱いている。苦手意識を解消できるように、同じような流れの対話の活動を多く取り入れた。
- ・「白い帽子」では、中心人物になりきって日記を書く活動の経験をしたので、叙述を手掛かりにして登場人物の性格や気持ち、情景などを想像させていきたい。
- ・読みの柱「戦争の悲しさ」「ゆみ子がお母さんを困らせたこと」「お父さん・お母さんのゆみ子への愛情」を設定している。
- ・3・4時間目「戦争の悲しさ」、5・6時間目、「ゆみ子がお母さんを困らせたこと」7・8時間目「お父さん・お母さんのゆみ子への愛情」を区切りとして学習活動をとらえている。場面を選ぶ→選んだ場面を交流し、友達の場面から+1場面を追加する学習を繰り返す。繰り返すことで、活動がスムーズになり安心感を与える。また、考える時間の確保にもなる。9・10時間では、ポップで紹介したい場面を選ぶこととする。
- ・本時では、ペア活動→ワークシートを机に置き（ギャラリーウォーク）自由に読みあう。
- ・交流の時には、「違うんだけど」「同じだけど」という言葉で友達の考えとつなげながら、交流させたい。

### 《その他の授業づくりに関して》

- ・指導事項については、ウ 文学的な文章の解釈に関する指導事項、オ 自分の考えの形成及び交流に関する指導事項とした。
- ・単元を通して意識させたい言語活動では、テーマを3つに絞ってポップで紹介することとする。
- ・本時では、読んだことを交流する時間がメインになる。交流した内容をメモしておいて、最後には精査して、どのような場面をポップに書くのかということにつなげる。
- ・場面を区切って読むのではなく、全体の中から読みの柱を立てて読んでいくようにした。
- ・戦争教材が2年生になくなったので、戦争について知識として戦争について知る時間を第2次に設けた。
- ・読んだことを紹介することを通して、何を読んで、どんな感想をもったのか、叙述でいいと思ったことを考えることができるのかが大事。

### 《質問・意見》

- ・「心に残ったこと」は、他の友達の意見を聞いても変わることはあるのだろうか？ほかに

影響されない部分であると思うので、「紹介したい場面」や「ポップに取り上げたい場面」の方がいいかも。

- ・感じ方に違いがあることに気づくことが、そのあとどのようにつながっていくのか？
- ・心に残った場面を4つ選ぶのは、3つから広がるので多いかもしれない。減ってもよいのではないか。絞っていく方法もあるような気がする。そうすると、より自分が強く紹介したい！というものになると思う。最終的には、2つに絞るのもあり。交流を取り入れた良さになるかもしれない。今後、中学年ブロックで話し合う。

### 《長浦課長 助言》

・ピクトグラムでは、互いの考えを比較するカーペア学習だとわかった。協働して課題解決する力の場面はどこにあたるのか？と指導案を見て思った。

・3～5までの流れで、最後の時間の確保を考えると4はなくてもよいのではないかと対話的な学びだとすると、対話を通して自分の中でどういう学びがあったのか？ということ共有する（振り返る）時間を多くとったほうが良いと思う。

聞いたけど変わらなかった、順番を入れ替えたなどあってもよい。自分の決定にどんな根拠をもたせているのかが大事。根拠を明確にして自分の考えをしっかりと伝え合うということが大事だと考える。

・前半「心に残った場面」後半は、「ポップに取り上げたい場面」と使い分けるとわかりやすい。

・まとめは、無理にすることはないと思う。しかし、2年生でこのくらいまでやったら、4年生はどのくらいまでということを考える必要がある。

・自分が人との交流を通して「～を感じたから・・・ポップで紹介する場面は～を選んだ。」と振り返ることができることよい。何を振り返えさせるのかをはっきりと子どもたちに伝えることが大事。活動の見通しとして、授業の初めに子どもに伝えた上で、授業を始めるとよいと思う。